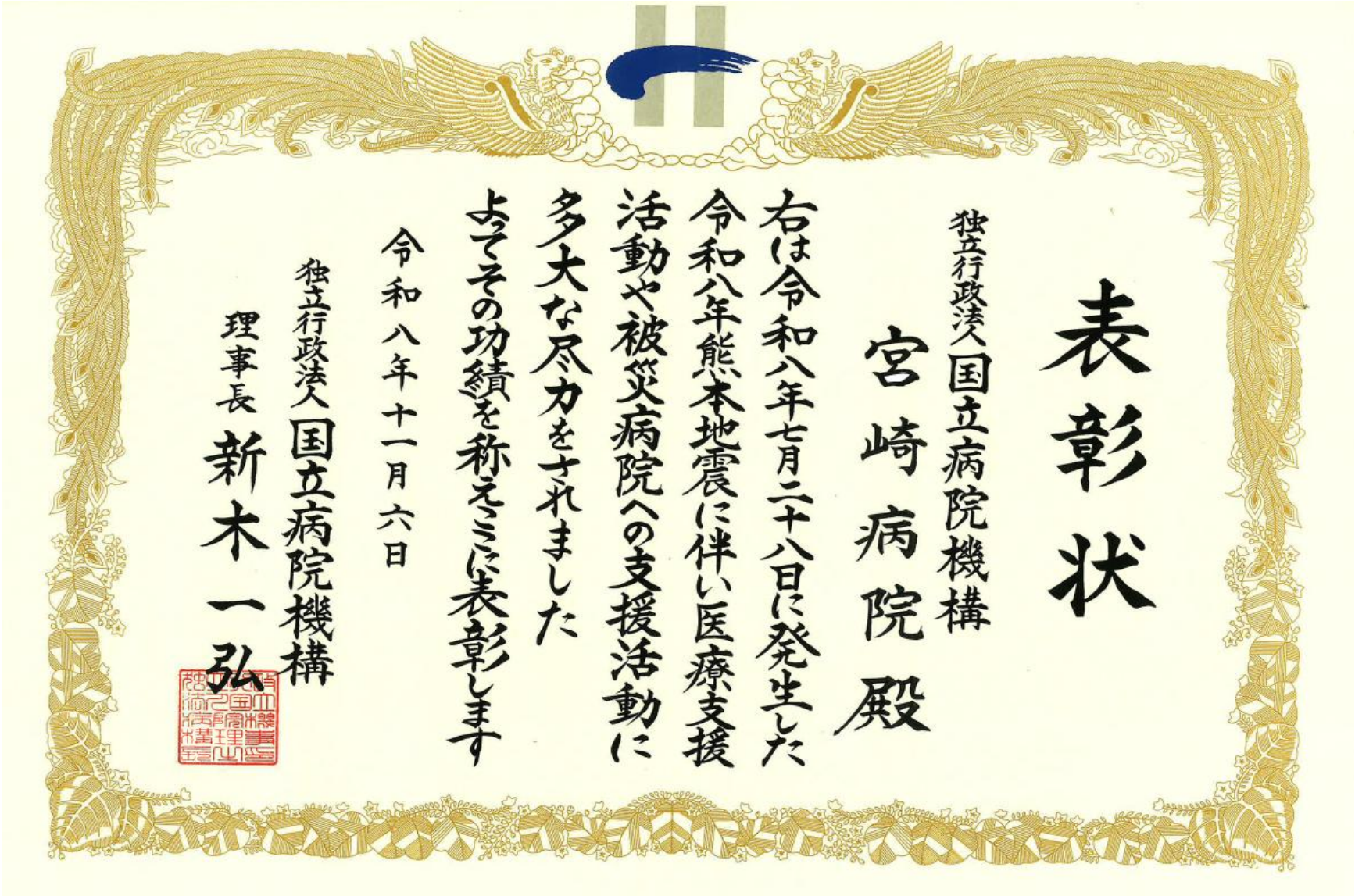
● 熊本地震被災地への医療班派遣について、表彰をいただきました。

活動内容について紹介いたしますので、是非ご覧ください。



表彰状

独立行政法人国立病院機構
宮崎病院殿

右は令和八年七月二十八日に発生した
令和八年熊本地震に伴い医療支援
活動や被災病院への支援活動に
多大な尽力をされました
よってその功績を称えここに表彰します

令和八年十一月六日

独立行政法人国立病院機構
理事長 新木一弘

NHO宮崎病院　医療班
熊本災害医療支援
活動報告

2026年8月15日～17日



01｜派遣概要

熊本県大津町を拠点に八代市内の避難所を巡回

活動期間
8月15日～17日（3日間）

活動拠点
八代市役所 災害対策本部

巡回
1日おおむね2施設



高速道路は全線開通していたものの、八代IC付近や市内には段差・一車線区間があり、安全運転が必要でした。

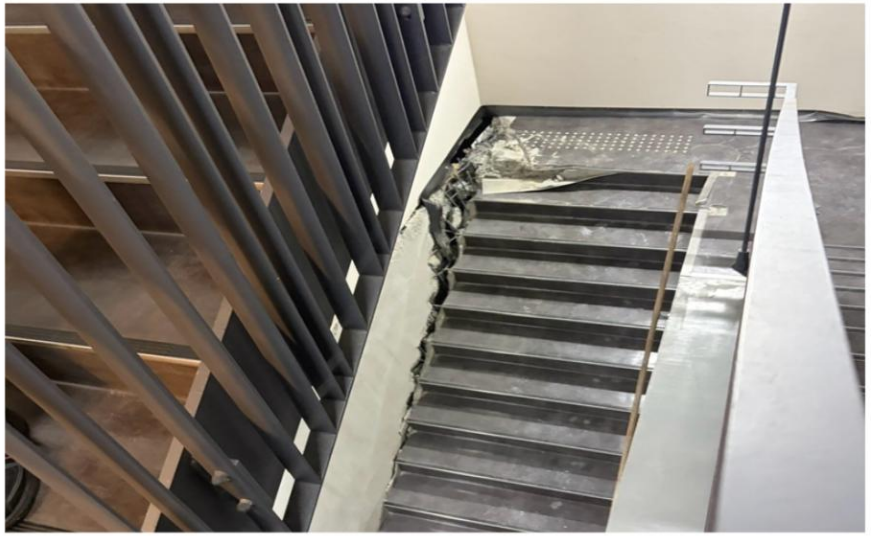
02｜被害状況写真

道中、目に留まった被害状況を撮影









03｜1日の活動の流れ

本部でミッションを受領し、避難所を巡回・評価・報告



- D24h・アセスメントシート・活動報告フォームへ記録

04｜避難所で行ったこと

環境と健康の両面から、避難生活を評価

避難所環境

避難者数・ライフライン･食事
トイレ・寝具・衛生環境

要配慮者

高齢者・妊婦
医療／福祉的要配慮者

健康確認

DVT・褥瘡・メンタル
感染症・体調不良

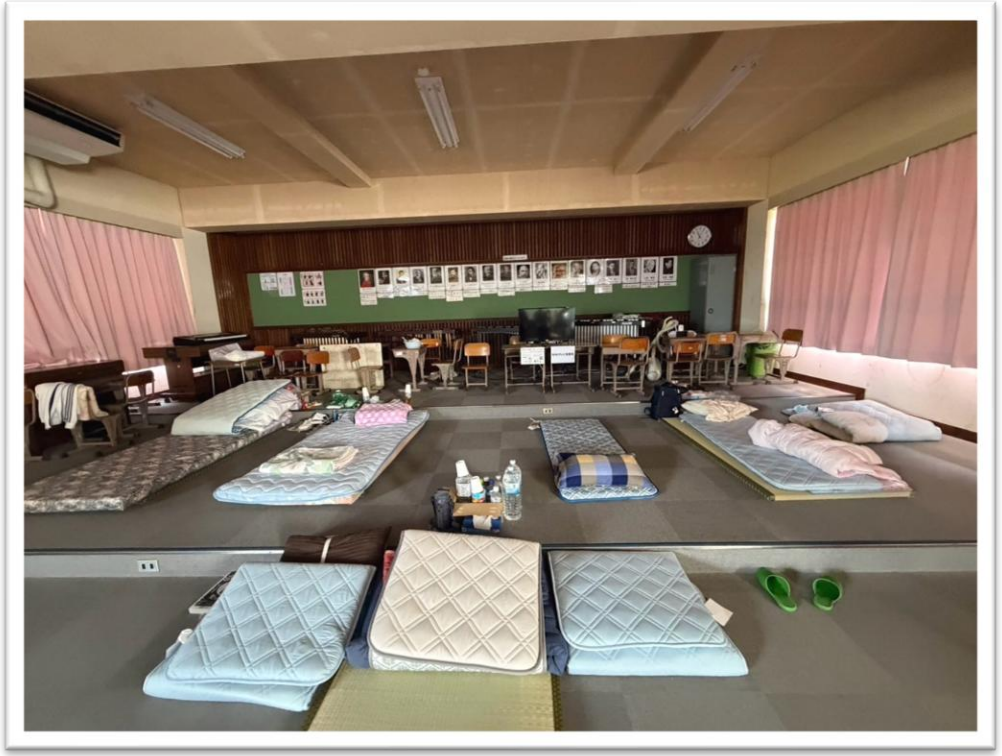
生活支援

弾性ストッキングの配布･指導
物資・受診への橋渡し

05｜3日間で巡回した避難所

八代市内、6か所の避難所を訪問

8/15	有佐小学校	避難者 18名
	植柳小学校	避難者 43名
8/16	第八中学校	避難者 69名
	宮地東コミュニティセンター	避難者 1名
8/17	八代市保健センター	避難者 26名
	日奈久コミュニティーセンター	避難者 36名

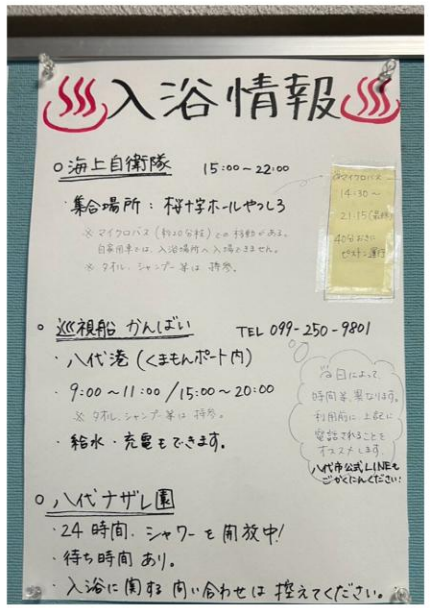


昼間は避難者が外出している施設が多く、管理者からの情報収集も重要

06｜避難所での活動の様子

八代市保健センターでの活動の様子











07｜現地で感じた課題

避難生活の長期化に伴い、ニーズも変化

- シャワー・トイレ・更衣スペースなど、衛生・生活環境の改善
- 避難所支援スタッフや管理者自身の疲労・休息への配慮
- 高齢者・妊婦・精神疾患など要支援者の継続的なフォロー
- 複数支援団体との情報共有と、申し送りの確実な継続
- 地域の通常生活・医療へ戻す支援への移行

災害フェーズの変化に合わせて、支援の内容も変えていく

08｜今回の活動を通して

災害支援活動では、健康状態だけではなく、
生活環境や一人ひとりの状況に目を向け、地域の医療・保健へ
支援をつないでいくことの重要性を実感しました。





09｜最後に

今回の災害医療派遣にあたり、必要物品等準備して下さった皆様。
また、出発式・到着式で温かく見送り・出迎えていただいた皆様。
たくさんの元気をいただきました、ありがとうございました。
この場をお借りし、心より感謝申し上げます。



